

宮本一行個展

「雪面の歩行 Walk on the Snow Field」

会期：2023.9.16（土）－12.25（月）9:00 - 17:30 観覧無料

会場：秋田公立美術大学ギャラリー BIYONG POINT

（秋田県秋田市八橋南 1-1-3CNA 秋田ケーブルテレビ社屋内）

主催：秋田公立美術大学

協力：CNA 秋田ケーブルテレビ、秋田プライウッド株式会社

制作協力：NPO 法人アーツセンターあきた

リサーチ協力：服部文祥（作家・登山家）、服部ナツ（猟犬）、石川竜一（写真家）

設営協力：櫻井隆平（アーティスト）

山行記（一部抜粋）

〔Scene01〕曙橋を拠点に荷造り。大雪山へと続く旧県道を歩き、自らの身体を雪山の環境に慣らしていく。

〔Scene02〕急な斜面を登っているとナツの知らせが届く。その後、服部さんが雪山を駆け降り、一発の銃声が鳴り響いた。

〔Scene03〕大雪山の峰に到着。ここから斜面積雪をトラバースするための装備を整え、覚悟を決める。

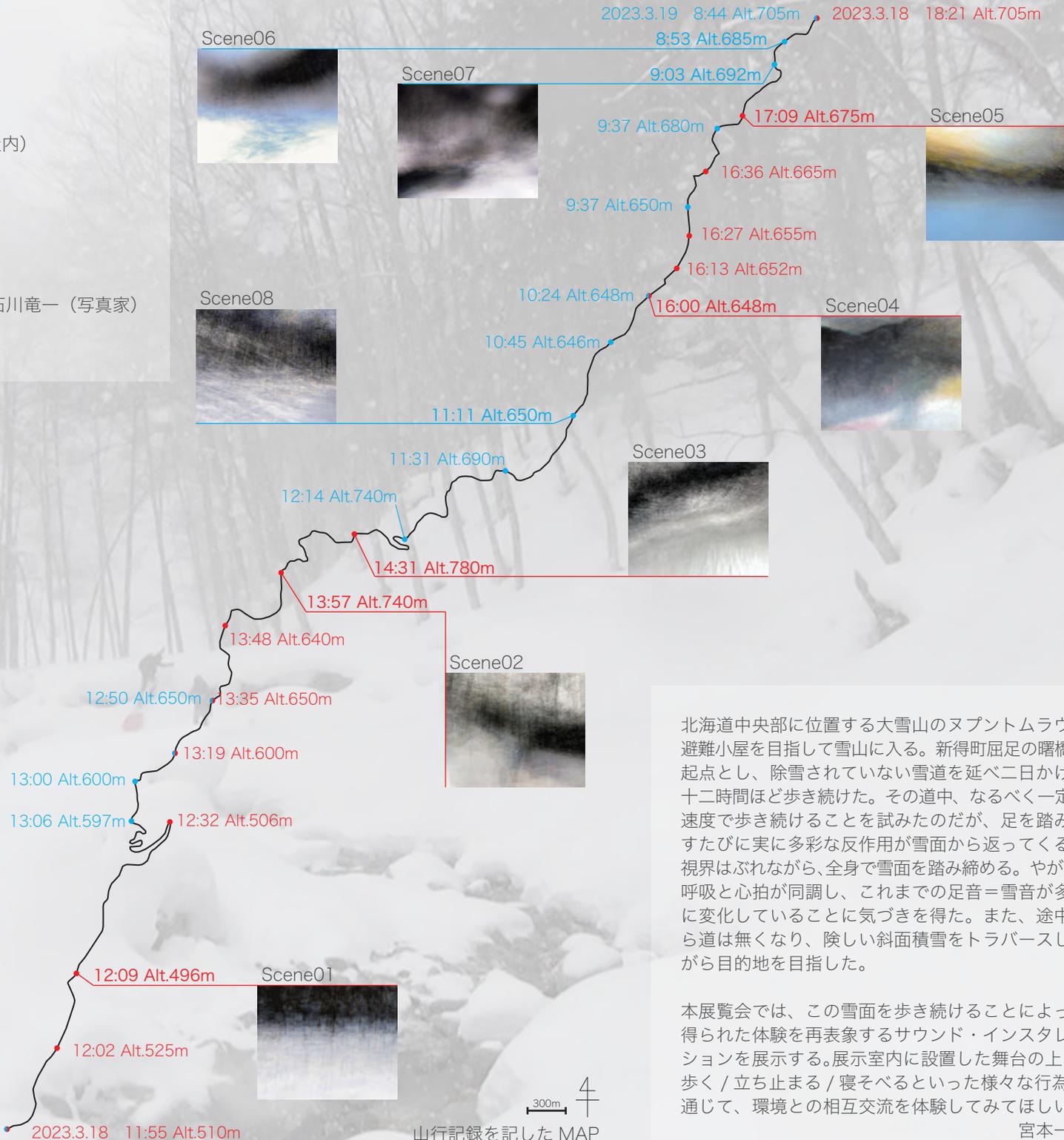
〔Scene04〕険しく切り立った雪面を滑り降りてからしばらく歩いていくと、沢水が流れる給水地点を見つける。

〔Scene05〕日が落ちて辺りが暗くなる。岩壁を伝っていくつもの川を横断しながら目的地へと急ぐ。

〔Scene06〕ヌプン小屋への食料デポを終えて一泊した後、吹雪に見舞われながら帰路を進んでいく。

〔Scene07〕猛吹雪の中、このまま進むのか引き返すのかを協議する。このまま完遂できると判断して歩を進めていく。

〔Scene08〕急な斜面の雪道を進んでいくと、吹雪が止んで雲が晴れた。この後の道中については、あまり覚えていない。



北海道中央部に位置する大雪山のヌプントムラウシ避難小屋を目指して雪山に入る。新得町屈足の曙橋を起点とし、除雪されていない雪道を延べ二日かけて十二時間ほど歩き続けた。その道中、なるべく一定の速度で歩き続けることを試みたのだが、足を踏み出すたびに実に多彩な反作用が雪面から返ってくる。視界はぶれながら、全身で雪面を踏み締める。やがて、呼吸と心拍が同調し、これまでの足音＝雪音が多彩に変化していることに気づきを得た。また、途中から道は無くなり、険しい斜面積雪をトラバースしながら目的地を目指した。

本展覧会では、この雪面を歩き続けることによって得られた体験を再表象するサウンド・インスタレーションを展示する。展示室内に設置した舞台の上を、歩く / 立ち止まる / 寝そべるといった様々な行為を通じて、環境との相互交流を体験してほしい。

山行記録を記した MAP

宮本一行